

## 税によって起きた奇跡

本庄市立本庄南中学校二年 平野 葵生

母のお腹に新しい命がやってきた。そのことを知った日の喜びを、今でも鮮明に覚えている。しかし、母は入院してしまった。まだ、予定日より四カ月も早かった。

緊急帝王切開で産まれてくることが決まった。予定よりも二カ月近く早く、いよいよ僕がお兄ちゃんになれる。ワクワクしながら、対面した弟は、とても小さくて、とにかくかわいかった。でも、すぐに保育器に入り、一緒に過ごすことはできなかった。

弟は退院してからも、定期的フォローといって、大きな病院に通い、診察や検査を毎週行った。筋肉が弱く、ミルクを自力で飲むことができなかった。そのため鼻から管を通し、「経管栄養」と呼ばれるやり方で、胃に直接流して栄養をとっていた。医師からは「99%車いすの可能性が高いです。」と言われた。そして、たくさんの検査をしても、何も問題はなかった。けれども、一歳になっても、歩くことも立つことさえできない弟だった。

弟が一歳になった頃、医師から胃ろうの手術を勧められた。その時、母と父が泣いていたのを見て、「僕が強くならなきゃ」と思ったことを思い出した。

手術を受け、集中治療室にいる弟は、胃ろうがついた。何日かして、お見舞いに行ったら、鼻から管が取れていた。これから毎日、管の無い弟の顔を見ることに、逆に違和感があった。いつも眼鏡をしている人が、急に眼鏡を外した顔を見るのと同じ感覚なのだと思う。でも、久しぶりに会う弟の笑顔が、誰よりも輝いて見えた。

療育を懸命に行い、一歳半で、歩いた。たった三歩だったけれど、家族みんなで泣いて喜んだ。胃ろうになったとたん、離乳食を食べるようになった。手術からたった九カ月で胃ろうを外すことができた。

弟は今、小学校三年生。サッカーが好きで毎日家でもボールを蹴っている。あの頃の病院通いが嘘のように、家族の中でも、誰よりもよく食べる。産まれてすぐの頃言われた「99%車いす」の、たった「1%」の奇跡が起こったのだ。それは、様々な医療や療育を、全て税によって受けることができたからだ。弟のような、グレーゾーンと呼ばれた医療的ケア児だった例は、健康に過ごせた幼少期の人数からしたら限りなく少数である。しかし、このグレーゾーンだからこそ、幼少期に受けられることができた医療や療育のおかげで、奇跡のような喜びを与えてもらった。税金がこのような素晴らしい奇跡を与えてくれる。

通常の出産では生きることができなかった弟。税がこのような使われ方をしていなければ、元気に走り回る弟の笑顔は今、見ることはできなかった。僕は、将来きちんと税を納めて、弟のようなグレーゾーンの医療的ケア児の家族を幸せにしてあげたい。そのために、医師か政治家を目指して、さらなる日本の発展に貢献し、きちんと税を納めていきたい。